



# Malawi Voice vol.10

～アフリカの国・マラウイからのおたより～

青年海外協力隊 平成27年度3次隊  
言語聴覚士 飯田知美

## ごあいさつ

日本は毎日寒い日々が続いている頃でしょうか。私は連日タンクトップ・半ズボンでうちわを持ちながら、生まれて初めて暑い暑い“真夏の年末”を過ごしています。おかげで年の瀬に差し掛かっていることを忘れてしまいそうになります。先日、クリスマスに大雨と強風が私の任地で猛威をふるい、自宅のトイレと風呂場の屋根が吹き飛びました。あまりの出来事にショックを乗り越して大興奮しました。1年経った今でも、日々新たな発見や衝撃を与えてくれるマラウイ生活です。

早いもので、もうすぐマラウイでの活動の折り返し地点を迎えようとしています。このおたよりの発行も10回目まで来ました。いつも読んでいただき、ありがとうございます。

乾季も終わり、マラウイは雨季に入っています。停電や断水と、畑の水やり作業で苦しんでいる私たちにとってはまさに恵みの雨です。一方で、困ったこともあります。私の配属先と自宅から、最寄りのバス停や市場までは土の道で約7km離れています。雨季に毎日のように雨が降り続くと、この道は最悪のコンディションになり、車やバイクはもちろん、徒歩や自転車でもスリップしたり全身ビショビショになります。そのため、なかなか市場やタウンに買い出しに行くことができない“陸の孤島”になってしまいます。マラウイの天気は予測不能で、晴天からたった5分程度で急にスコールのような大雨になることもあるので、移動に時間のかかる土地で暮らしている者にとっては大変な状況です。ちなみに、マラウイアンは雲の動きや雨の匂い(?)から雨が降ることがなんとなく分かるそうで、雨が降り出す10分前ぐらいになると生徒たちがソワソワし始めます。この行動が私にとって唯一の天気予報になっています。

ところで、因果関係は謎ですが、雨季の時期はもともと悪いネット通信状況がほとんど通信不能な状態になり、電話もなぜかプツプツ切れます。任地で日本人一人で生活する私にとって、メールやSNSなどが唯一遠くの友人や家族と文字でつながる手段です。そして現地語・現地手話・英語は少しずつ慣れてきましたが、もちろん自由に言いたい事を表現できるレベルには程遠いです。そんな私にとって電話で隊員仲間と話す時間が唯一“不自由なく”言葉を操れる時間です。

そこで、前回のマラウイのインフラでは、水と電気についてご紹介しましたが、今回はマラウイの通信状況についてご紹介したいと思います。

2016年12月  
飯田知美



## マラウイの通信状況について



外国人（特に先進国の人）がマラウイを訪れる際、最も気になる情報の一つがネットや電話などの通信関連のことだと思います。今回は、マラウイのネット環境や電話会社、ネットの利用方法などをご紹介します。

### 【マラウイでの電話やネット環境】

そもそも途上国の中でも最貧国と言われるマラウイでネットは使えるのか？という疑問がある方もいると思います。答えは、「使用可能」です。ただし、地域によっては圏外になってしまうこともあります（日本でもありますよね）。特に都市部では比較的通信環境が良いところが多いです。私の任地の場合、同じ学校の敷地内であっても、校舎付近はつながりやすく、私の家はほとんどつながらない状況です。電話の通信もネット環境と似たような状況ですが、電話の方がつながりやすい印象です。通信環境が良い場所（主に都市部と電波塔付近）では、YouTube の動画を閲覧することも可能ですし、Skype を利用したテレビ電話も可能です。

日本では 4G（LTE）という回線を使って高速インターネット通信が可能ですが、マラウイでは 3G 回線が最高です。そのため、首都でも日本に比べると通信速度が遅い印象です。私の任地では 3G と 2G が時間帯により変わるようで、調子が良い時にニュースアプリの更新、Facebook の閲覧や投稿、Google の検索（画像の多いホームページは使用不可）ができる程度です。G-mail は 1 時間程遅れて届くことがよくあり、添付されているデータ（文書や画像）は校舎まで歩いて行か、都市部に出かけたタイミングでダウンロードしています。

マラウイの家はレンガとセメントで建てられているためか、室内では電波が弱くなり、窓際でやや改善される傾向があるようです。



### 【マラウイの電話会社】

現在、マラウイの電話会社は 4 社あります。「Airtel」「TNM」「MTL」「ACCESS」の 4 つになります。MTL は現在 SIM カードの購入等は取り扱っておらず、主に使用されているのは Airtel と TNM です。電波塔の位置によってどちらの会社がつながりやすいかは異なりますが、隊員仲間の意見によると、Airtel の方が電波が良いという意見を多く耳にします。私の任地でも Airtel が優位で、TNM を使用すると電話の音が聞き取りづらかったり、時には途中で電話が切れてしまいます。

前回お話ししたように、私たち JICA ボランティアは安全確認用に携帯電話を支給されています。地域により電波状況が大きく変化するため、全隊員 Airtel・TNM の SIM カードが支給されています。

## 【ネットの使用方法】

マラウイでは日本のように電話会社との契約をしなくてもネット・電話ともに使用可能です。SIMカードは街中であればそこら中の道路で、農村部ではマーケットなどで簡単に手に入ります（500MK 程度）。お金は振り込みや引き落とし制ではなく、プリペイド式になっています。SIMカードと一緒にの場所で、写真のようなユニットを購入することができます。このユニットはスクラッチするとPIN ナンバーが出てきます。このナンバーを入力することでお金をチャージすることができます。システムになっています。お金をチャージすると、すぐに通話可能です。簡単ですね。

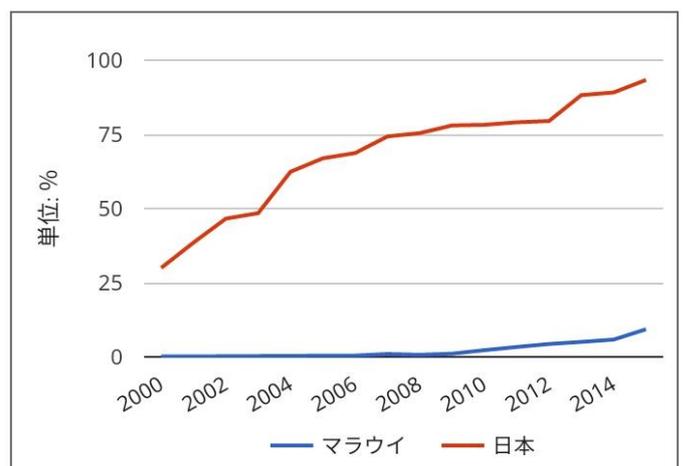
インターネットに関しても、同じ手順ですぐに使用できますが、そのまま使用するとあっという間にお金を使い果たしてしまいます。そこで、日本でいう「定額制度」と同様の“バンドル”というものを購入します。バンドルは「デイリー」「ウィークリー」「マンスリー」を選ぶことができ、自分の使用状況に合わせて、ギガ数も選ぶことができます。私は Airtel 社のマンスリーバンドルを毎月 2GB（6200MK ≒ 900 円程度）購入しています。隊員によっては、月に 10GB 以上使用している隊員もいますが、私の任地では通信環境が悪くて動画や画像のダウンロードができないので 2GB 使い切れない月がほとんどです。



## 【マラウイのインターネット普及率】

最後に、マラウイにおけるインターネットの普及率についてご紹介します。下のグラフが日本とマラウイのインターネット普及率です（出典：ITU-ICT Statistics）。2015 年時点で、日本ではほぼ 100%に近い普及率になっていますが、マラウイでは依然として 10%未満です。この表から見ても明らかなように、マラウイではネットを利用している人は富裕層です。

ただし、通話のためだけに携帯電話を所持している人は村でもよく見かけます。インターネット普及率もここ数年で徐々に上昇してきているため、10 年後くらいには、村でもインターネットを利用する姿を見かけるようになるのでしょうか。



### <インターネット普及率の推移：%>

年	2000	2001	2002	2003	2004
マラウイ	0.13	0.16	0.22	0.28	0.35
日本	29.99	38.53	46.59	48.44	62.39

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
マラウイ	0.38	0.43	0.97	0.70	1.07	2.26	3.33	4.35	5.05	5.83	9.30
日本	66.92	68.69	74.30	75.40	78.00	78.21	79.05	79.50	88.22	89.11	93.33



## 11月の活動の様子



あっという間にタームの終わりに向かう11月。1日1日があっという間に過ぎていくように感じます。11月も基本的な活動内容は先月と同じですが、訪問者やイベントが多く、バタバタと忙しく過ごしていました。任地で初めて自分の主催で開催したイベントのご報告をしたいと思います。

### 【特別支援学校サイエンス教室】

活動初期から長らく授業見学をしていて感じていたことの1つに「視覚情報が少ない」ことがあります。私の配属先の学校（特に高学年）では、教科書の内容をひたすら板書し、生徒に通りそれを書き写す時間（右写真）を取ってから、文字を棒でつつきながら簡単な手話をつけて説明します。ある日学年でトップの成績を誇る女子生徒に、「板書された英語の中で、意味がわかる単語ってどのくらいあるの？」と質問してみると「半分以下かな（笑）」との返事がありました。手話での説明で授業のメインの内容はなんとなくわかるらしいですが、文字として理解していないうえ、理屈を理解していないため、テスト（ほとんど選択問題）では直観勝負かカンニングで乗り切る生徒ばかりです。



この状況で何かできないかと考えて最初に思いついた企画が「サイエンス教室」でした。実験や見て学ぶ科目として、理科の授業が扱いやすく、さらにマラウイ（しかも同期隊員）には理科教育隊員が多数活躍しています。そこで彼らに依頼して、聴覚障害の子どもたちが『見て・分かって・楽しめる授業』を実践してみることにしました。そして、以前見学にも行った姉妹校のメアリービュー聴覚障害児特別支援学校と、メアリービューの隣にある視覚障害児の特別支援学校でも開催しました。

### <対象>

5年生以上の生徒（視覚支援学校は8年生の生徒のみ）。理由は、あまりたくさんいると難しいことと、5年生から、チェワ語（国語）の授業を除く全ての科目が英語で授業を行うようになるためです。

### <内容>

今回講師として依頼して隊員は、普段はセカンダリースクール（高校）で指導しているため、カリキュラムが異なります。そのため、日本のテレビでもよくあるような実験授業のような内容を実施してもらいました。主な内容は以下の通りです。

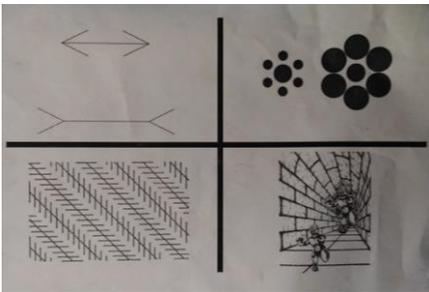
- 人体の不思議（錯視など）
- 空気砲作り
- 粉じん爆発
- スライム作り（視覚支援学校）

～ サイエンス教室の様子 ～



隊員 A:「さあこの状態で足をあげてみよう！」  
生徒:「ん…あがらない…なんで？」

私:「君が立てなくなる魔法をかけるよ。起立！」  
生徒:「あれ？立てない…」



錯視の実験です。下が真ん中に置いてある資料の拡大写真です。  
左上の図、どちらの直線が長いでしょう？  
みんなが答えた後に実際に枝を使って長さを比較してみました。

スライム作り。  
視覚障害を持つ生徒達も初めての触感を楽しんでいました。



粉じん爆発。  
ポウ！！とあがる炎を見て自然と拍手が。全ての学校で一番盛り上がりました。



空気砲作り。作った空気砲を使って、逆さに立てたペットボトルを倒したり、ろうそくの火を消してみました。

## ～ 活動・生活の様子 ～

先生が会議や用事（主に銀行）で欠席すると、時々授業を頼まれてしまいます。外国人が外国手話を駆使して国語（チェワ語）を教えるという異様な光景です。



何もないスピーチルームは何となく寂しい感じがしたので、生徒に絵を描いてもらって掲示するようにしました。自由帳なんて持っている子は少数。みんな地面や窓に落書きするのが基本です。そのため、「絵描きたい人～？」と紙を見せると希望者が殺到しました。そしてスピーチルームは毎日絵の見物客でにぎやかになりました。

メアレビューで活動しているノルウェー人ボランティアの2人が、マウンテンビューにオーディオメーターの使い方の研修に来てくれました。実物があるため先生も意欲的です。



一生懸命に昆虫採集をしています。下の写真がこの時捕まえていた虫たちです。

さて、何のためにこの虫を採っていたのか。ご想像にお任せします。





## 隊員紹介



久しぶりの隊員紹介です。しばらく任地見学に行く機会もなくお休みしていましたが、先日急に「明日は休校にします」と言われたので、同じチョロ県にあるチョロ県立病院に行ってきました。チョロ県立病院では、現在3名の隊員が活動しています。今回協力していただいた不動隊員は、私より1年早くからマラウイで活動している先輩隊員です。マラウイに来てすぐのカントリーツアーで自宅にお邪魔していろいろマラウイについて教えてもらいました。不動さんといえば、マラウイ隊でおそらく一番歩く人。散歩が好きらしく、隣の県まで約40kmの道のりを歩いたという伝説も。見学に行った日もお気に入りの散歩コースを紹介していただきました。同じ関西出身ということもあり、話していると関西弁の響きで懐かしい気分になります。そんな不動さんも2年間の活動を終え、間もなく帰国します。寂しいですが、帰国後のご活躍（と歩行距離の更新）を期待しています！



### 隊員情報

（掲載内容は本人より了承を頂いています）

名前：不動 茜（ふどう あかね）

隊次：平成26年度3次隊

職種：看護師

配属先：チョロ県立病院

出身：大阪府

### ～隊員からのメッセージ～

こんにちは。2015年1月より5S看護師隊員としてチョロ県立病院に配属されている不動 茜と申します。【5S】という言葉はあまり聞きなれてない方もいらっしゃるかと思いますが、簡潔に述べると「整理整頓して、職場環境を改善しよう」という取り組みです。日々病院の各部署を回り、对患者さんに【医療行為】ではなく、対スタッフと【整理整頓】を一緒にする、という活動をメインに行っています。

私たち日本人にとって【整理整頓】は小さい頃から周りの大人に口を酸っぱく教えられ、習慣として身についているかと思いますが、マラウイでは「使ったものを返す」という概念があまり定着していません。地道に根気よく続けていくしかない5S活動ですが、2年間という派遣の時間的制限もあり、なかなかうまくいかず落ち込むこともありましたが、しかし、周りのスタッフには本当に恵まれ、たくさん助けてもらい、今月無事に2年間の任期を終えて2017年1月、日本へ帰国となります。

私は小さい頃から国際協力に憧れていて、3年間看護師としての病棟勤務の後、協力隊に応募しました。最初は日本と違い過ぎる文化の違いに戸惑うこともありましたが、周りの人からの暖かいサポートを受け、逆に多くのことを学ばせてもらい、充実した2年間を過ごすことが出来ました。マラウイに来る前と比較してみても、考え方や視野の広さなど自分でも実感できるほど変わったと思います。

今後は、やはり国際協力の分野で仕事をしていけたらと考えています。そのため大学院へ進学して改めて国際保健をきっちり学び、そしてまたアフリカ…できればマラウイに帰って来られたらと思っています。

不動 茜

## ～チヨロ県立病院見学～



チヨロ県立病院外観（ごく一部）です。国立病院の次に大きいとされる県立病院ですが、この病院は県立病院の中ではかなり大きな病院です。

ヘルスセンターにもあったアンダーファイブ（5歳児以下健診）です。右の測りのようなものは、赤ちゃん用の体重計です。チテンジという布にくるんだ赤ちゃんをフックに引っ掛けて体重を測定します。



5Sのために、まず各病棟の不用品・要修理品をかき集めるとこんなにたくさんあったそうです。下はラベルを貼って必要な道具を収納している様子です。



新生児集中治療室には海外から寄付された最新の酸素吸入装置がありました。しかし、なんとこの機械が停電のため止まっていました。病院にはジェネレーターがありますが、それも故障中。停電が原因で命を落とす赤ちゃんがいるのがこの国の現状です。

